



### 各地の活動報告

#### ●94才 今なお現役

川越榮助さん（青森県八戸市）は、地域の子どもたちが安全に通学できるよう、道路の除草ボランティアや見守り活動を始めてなんと50年。10月9日（水）、青森銀行百石支店で三沢支部の川守田光男代表より「小さな親切」実行章が贈呈されました。



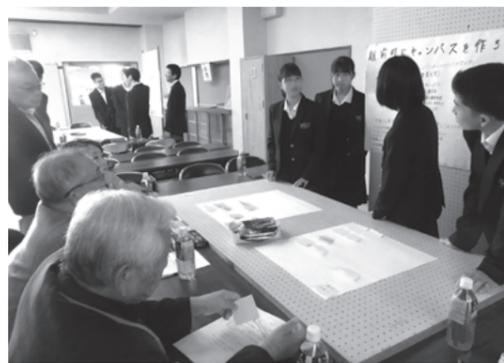
三沢支部川守田代表（左）と川越さん（右）

思いやりの心を大切に、温かみのある接客を目指して活動を進めてくださいます。

#### ●平和への想いを「あっちゃん」とともに

腹話術で自らの被爆体験を語る活動をされている小谷孝子さん（千葉県原爆被爆者友愛会理事）の半生と、平和への想いが二冊の本となりました。小谷さんは6才のころ広島市内の自宅で被爆。倒壊した家の下敷きになりながらも、奇跡的に軽傷で済みました。母と弟を亡くしました。被爆体験はあまりに辛く、長い間心

を続け、継続の秘訣は「今日もできたという満足感」と語る川越さん。「継続は力なり」を身をもって示してくださいました。



ポスターにまとめ発表

#### ●高校生の発想力に期待

「世代間交流」を活動目標のひとつにかかげる福井県越前町支部は、11月20日（水）、県立丹生高校と3回目となる特別授業を行いました。今回は、地域活性をテーマに「ポスターセッション」を実施。生徒たちは越前町の課題と解決策を探し、成果をポスター1枚にまとめ発表しました。課題は、公共交通の利便性を上げるためには、地元食材のPR方法、休耕田の活用方法など多岐に渡り、同支部の杉森正義代表をはじめ、参加

した18名の支部役員は、高校生の自由な発想に感心しきり。若い世代との交流に大いに刺激を受け、今後も共によりよい地域をつくるため、協力したいと意気込んでいました。

#### ●新たな運動の仲間

6月の広島県本部の総会で、運動本部の小林和明副代表が、「小さな親切」の精神を企業経営に取り入れたことで、離職者が激減した自らの経験を講演。この講演に木村祭氏（株）4℃ホールディングス代表取締役会長・CEOが共感し、木村会長をはじめグループ会社の岡藤一朗・（株）エフ・デイ・シー・プロダクツ取締役常務執行役員らが個人正会員に、ジュエリーブティック「4℃」の販売会社である（株）エフ・デイ・シー・フレンズ（代表取締役社長：浅野文彦）が法人会員として運動の仲間に加わりました。



（左から）浅野社長、木村会長、小林副代表、岡藤常務



「あっちゃんと語る被爆体験」  
（なかおかブック刊）  
本体価格：600円（税抜・送料別）  
ご注文・問合せ：オフィスなかおか  
TEL：03-5228-7018  
FAX：03-4291-7156  
URL：https://www.office-nakaoka.com

#### 〈お得情報〉

「小さな親切」誌を見たとお伝え頂いた方には、税抜き価格（600円）で販売いたします。

#### お知らせ

#### ●寄附者ご芳名

（2019年9月～12月末／順不同、敬称略）  
山口県 福増 満／栃木県 湯浅末吉／広島県 藤原紀男／東京都 森建輔

## 「小さな親切」運動で すばらしい地域社会を

（公社）「小さな親切」運動本部 副代表 森本弘道

「小さな親切」運動本部は、次世代を担う青少年をはじめ、広く国民の間に「小さな親切」の心を育てる様々な活動を行っています。我々のテーマは、「できる親切はみんなでしょう、それが社会の習慣となるように」。親切には、大きいとか小さいはありませんが、茅誠司初代代表が提唱された「小さい」とは、誰にでもできるという意味があったようであります。

ここで、皆さんにお願いがあります。「小さな親切」を実行しようと思うときに、少しばかりの勇気を持ってください。例えば、電車やバスに乗ったとき、お年寄りや体が不自由な人、赤ちゃんを抱いた人などに席を譲ろうかと考えていたえら、タイミングを失ってしまった経験はありませんか。親切をするのも受けるのも、少しの勇気が必要です。

私は外国に住んでいたこともありますし、海外旅行もしましたが、日本人は大変親切だということは自負していると思います。

人に親切にする、挨拶をする、街をきれいにするなど、考えてみれば当たり前のことでもあり、誰にでもやろうと思えば簡単にできることではないでしょうか。

一人一人が、やるかやらないかです。少し残念ではありますが、今の日本にやや不足している部分でもあるように思います。

日本人が、そして日本に住んでいるすべての人々が「小さな親切」の精神を理解し協力して、より素晴らしい地域社会を作っていくにはありませか。

（月刊「経済春秋」2019年8月号「視点・論点」より抜粋）

## 「小さな親切」実行章 受章者からのメッセージ

卒業ソングの定番「マイバラード」の作詞・作曲者の松井孝夫さん（58才・聖徳大学准教授）は、音楽活動を通じ、青少年の心の育成に貢献しているとして、「小さな親切」実行章を受章しました。

「マイバラード」は30数年前、高校生だった松井さんが参加していた自立支援サークルで、障がいを持つ方と一緒に歌うために作った曲がもとになりました。曲の中で繰り返される「みんな」という歌詞には、「障がいを持つ人も持たない人もみんなで心を一つにして歌おう」とのメッセージが込められています。

その後、中学校の教師となった松井さん。なかなか生徒の心がつかめず、悪戦苦闘する日々の中、「もつと心を開いてほしい」という想いや、人間関係に悩む生徒に「仲間を信じて前に進もう」とのエールを歌詞に重ね、合唱曲として「マイバラード」を発表。

美しいメロディもさることながら、歌詞に込められた想いが共感を呼んだのでしょう。この歌は急速に全国にひろがり、多くの小中学校の卒業式で歌われるようになりました。

「みんなで心を合わせて歌うことで、心が一つになり互いがわかりあえたなら、

どんなにか素敵なことだろう……。そんな平和な世界をイメージして歌ってほしい、と松井さんはメッセージをくださいました。

※メッセージの全文は「小さな親切」運動WEBサイトに掲載しています。

### マイバラード 作詞・作曲 松井孝夫

みんなで歌おう心をひとつにして  
悲しい時もつらい時も  
みんなで歌おう大きな声を出して  
はるかさがらず歌おうよ

☆心燃える歌が、歌がきつと君の元へ  
きらめけ世界中に 僕の歌をのせて  
きらめけ世界中にとどけ愛のメッセージ  
みんなで語ろう心をなごませて  
楽しい時もうれしい時も  
みんなで語ろうすなおに心開いて  
どんな小さな悩みも  
心痛む思い、たとえ君を苦しめても  
仲間がここにいるよいつも君を見てる  
僕らは助け合って生きてゆこういつまでも

#### ☆繰り返し

とどけ愛のメッセージ

